第 2012-20 号

恵みと真理のニュース

2012 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私の信仰が回復し、夫が救われた恩恵を感謝申し上げます。

私は比較的裕福な家庭で成長して職業軍人だったはとこのお兄さんの仲立ちで夫にめぐり合って7年間付き合った後、1971年に結婚しました。お兄さんも口を極めてほめたし、付き合っていた際は性格も円満でしたが、結婚して暮らしてみたら堪え性が足りなくて性格も非常に短気な方なので小さなことに腹を立ててしまいがちだったので私はとても苦しんでいました。
年子で二人の息子を育てるのには肉体的にもなかなか大変でした。だからといって性格の不一致で別れるわけにもいかないものでたくさん悩みながらいろんな方法を見つけようとしていた中、神様に頼る信仰生活をしようと心に決めてソウルのある教会を通い始めました。幼い二人の息子をつれてバスを2回も乗り換えて教会に通っていました。そうするうちに、区域長の役目を頂いて区域長用カバンを持って家に帰ったが、夫がカバンを取り上げて引き裂く圧迫をかけました。
その状況でソウルに引越しをしました。私は夫がイエスを信じるようにして頂くことを他の全てのお祈りよりも優先して一心にお祈りしました。しかし、夫はベトナム戦参戦のとき、永世を受けたといってむしろ私がカトリック教に改宗して自分に従うよう押し付けました。私はそんなことはできないといって頑張りましたが、結局夫の圧迫に耐えられず、小学生の二人の息子をつれて永世を受けてしまいました。
夫は2,3回カトリック教会に出てからやめました。私は身も心も疲れ果てて、そのときからこの世の快楽にはまってしまいました。
友たちと付き合って世の中の空しい楽しみに陥って過ごしているうちに、私たち夫婦が運営していた飲食店がつぶれて住んでいた家さえ債主たちに渡りました。
そのときようやく目が覚めました。その間、神様より遠く離れて世俗的に生きてきた私の全ての罪をお赦しくださいますよう涙を流して神様に悔い改めのお祈りを申し上げました。
やむを得ず、実家のあるアニャン市へ引っ越して実家で作ってくれた小さい店を運営していましたが、周りで恩恵と真理教会に出て幸せに信仰生活をする信者たちがしばしば目につきました。その方々をうらやましがって、ある日足を運んで恩恵と真理教会を訪ねました。初の礼拝時間より説教を通じてお恵み頂きました。聖書に出る「放蕩息子とお父さん」のたとえが全く私の話でした。その日礼拝を捧げる間ずっと神様の御前でたくさんの涙を流しました。涙に暮れて説教する党会長牧師の顔がちゃんと見られませんでした。お聞かせいただく説教は私を慰めて、思い知らせて、新しい力と勇気を下される生きていらっしゃる神様のお言葉で私の心に話し難い恩恵と感動になって押し寄せました。
礼拝が終って教会を出るとき、今まで心にお持ち出来なかった神霊の安らぎと自由を感じました。
生活環境は苦しかったですが、熱心に教会に通いながら心だけは本当に幸せでした。
当時から神様のお助けで家庭経済も速く回復しました。信仰の回復と主の仕事に深く参与して献身できるようお祈りして働いたら真実なる神様はいろいろなところから救いの手を差し伸べて下されました。やっていた事業がうまく行って家と別の不動産まで仕入れることができました。
そして、大学1年生だった長男が大きな交通事故にあいましたが、神様が活かしていただく奇跡のような恩恵も経験しました。そんなに私を圧迫していた夫も‘神様が息子を生かされた’と神様に感謝のお祈りを差し上げました。
その後、神様の恩恵で息子は信仰の家庭を作って一男一女の父となって、嫁もやさしくて真実で子供たちと一緒に家族全部が素晴らしい信仰生活をしています。
息子を通して神様の奇跡を目撃して神様に感謝していた夫でしたが、私には熱心に教会に出てくれと言っていながらも“俺は忙しくないときに神様にお会いに教会に出てやる。”と教会出席を今日、明日と延ばしてばかりいました。
ところが、2010年のある日突然夫が片側の側頭部が痛くて目が見えないと言いました。急いで病院に入院して10日間いろいろの精密検査を全部受けてみましたが、原因が分からない珍しいケースと言われました。結局、夫は片目を失明してしまいました。入院していたとき、恩恵と真理教会の長老、勧士、教役者、聖徒の方々がほぼ毎日訪問して夫のためにお祈りいただいて、聖書のお言葉で慰めて力付けていただきました。
ついに強情な夫が心を開き出しました。退院してすぐに私について教会に出て登録しました。
今は誰よりも熱心に礼拝に出席してお言葉の恩恵を受けていて、力の限りを尽くして主に仕えています。今年署理執事に任命されてからは更に心の安らぎを得ていつも感謝する気持ちで生活しながら神様のお言葉を聴くことを喜んで精一杯お祈りする夫の姿をみると本当に幸せです。
苦難を福に変えられた神様、戻ってきた私を愛で抱いて下された神様、夫をお救いいただいて我が家族全部が主の中で神霊の楽しみと満足を享受しながら暮せるようにしてくだされた神様の恩恵に限りのない感謝を捧げます。なおさら神様を畏敬して頼りにして愛して、お言葉に従って主の仕事に努めて生きます。

［信仰コラム］　信仰の三つの必須徳目と要素

あなたがたが信仰によって働き、愛のために勞苦し、また、わたしたちの主イエス.キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。（１テサ１：1～３）

信仰、愛、希望は信仰生活の徳目で要素です。キリスト者でなくても誰でも欲しがるものです。しかし、実はキリスト者が持つ信仰、愛、希望とは根本的に異なるものです。役事と苦労と忍耐という言葉はその違いを表してくれます。キリスト者なら誰でも信仰の役事と愛の苦労と希望の忍耐を持たなければなりません。
第一には、信仰の役事といいました。役事とは仕事、行為を意味します。使徒パウロはローマ書とガラテヤ書で行為では救いが受けられないことを力説しました。どころが、ここには信仰の行為といって信仰と行為を結び付けています。アブラハムは神様が約束通りに下された息子、１００歳に得た息子のイサクを燔祭（はんさい）として捧げよとの神様の命令に直ちに従いました。彼が神様の御言によって随順して実行したのは心に神様の口約への信仰があったからです。信仰に結び付けられた実行というのは神様の約束について少しも動揺のない信仰との意味です。救援に至らせる信仰には神様の口約通りに、救贖使役を成し遂げて復活されたイエスキリストを唯一の救い主に受け入れて、これによる誘惑と圧迫と試みにも磐石不動のような行為が伴います。
第二に、愛の苦労といいました。愛は好き以上の意味です。好きなことには強いて犠牲が伴わなくてもいいです。しかし、愛には苦労と犠牲が伴います。自己中心でなくて愛する対象が中心です。キリスト者が表現する愛は主イエスキリストの中に現れた神様の愛によって刺激されて感動してこぼれる愛で、またイエス様への愛によるものです。このような愛を表現するために喜んで苦労と犠牲をするのです。愛の苦労は二つの方面で行われます。聖徒に仕える苦労と、不信仰者をイエス様へ導くための苦労です。主への愛を表現するために自分の属した教会に使えて不信仰者を教会に導くのに苦労するのは私たちにとって大きな特権で、喜びで、幸せです。
第三に、希望の忍耐です。ここで話す希望はキリストの中で神様のお供とお助け下されることを期待するために持つ希望です。ロマ書5章３節と４節には「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が 練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」とあります。こういった希望です。8章28節には「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」となっています。こういった希望です。また、イエスキリストの再臨とそれに伴う私たちの体の復活、イエス様が下されるご褒美、そして新しいイェルサレムへの望みです。
こういった希望による忍耐です。我が主イエスキリストによる希望を持つ人はいかなる苦難と困難と圧迫に気を落とさずよく凌ぎます。イエスキリストの約束のお言葉通りになることを希望するのでゆっくりこらえ抜けます。キリスト者にある信仰、希望、愛は特別なものです。
‘信仰の行為、愛の苦労、我が主イエスキリストに対する希望の忍耐’という表現を通じてその本質が明らかに現れました。これは信仰の必須な徳目で、要素です。このような信仰の行為、愛の苦労、希望の忍耐が皆さんにいつも充満するように願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

原因と反応と結果

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

天生縁分という言葉があります．天からあらかじめ用意してくれた縁分という意味です．聖書的に解こうとすると神様の決めることでなった縁分という話になります．縁分と言うのはお互いに関係を持つようになる因縁という意味で，縁と言うのは事物たちの間にお互いに結ばれる関係です．因縁という二つの字の中に ‘因’は直接的な原因を意味して‘縁’は間接的な原因を意味します．例えば穀食の実はたねが直接的な原因で，そのたねが芽生えたというのに影響を及ぼしたものなどは間接的な原因です．すべての被造物と事件は原因と結果という関係で存在しています．

私たちの意志や活動とは無関係な原因があるかと言えば，自分の意志と活動に係わる原因があります．皆さんが生まれた時代，国家，民族と言うのは皆さんの意志や活動とは全然無関係です．皆さんの生まれは皆さんの意志や行為とは全然　関連がないです．上級学校や職場に入ることは各自の意志と努力と相当な関連があります．家庭を成すことも同じです．

人が　一生を住むうちに自分の意志と努力とはどんな関係がなく直面するようになる状況を運命だと言います．手広くそして多くの人に被害と苦痛を与える運命的な事件の中には戦争があります．また戦争外にも自分の意志や行為に関係ないことが作用して一生に及ぶ影響が莫大です．どんな結果に至るまでは多くの原因たちが係わっています．こんな事を思えば運命論者になりやすいです．聖書は神様を歴史と人生の主権者に啓示しました．人類歴史の進行と結局は神様が決めたとおりなるでしょう．その大略が聖書にもう予言されています．しかし神様が人間に自由意志をくださいました．そしていろいろの原因たちに対する人間の選択と行為が重大な結果をもたらすようにしました．原因たちに関して私たちが非常に重大に扱わなければならないこと二つがあります．その中に一つは自分に影響を及ぼすようになる原因たちに対する反応です．他の一つは他の事物に対する自分の原因提供です．原因に対する反応と原因を提供する行為この二つはその人の一生と永遠な生に重大な結果を及ぼすようにします．

**第一は、人がどんな原因によっても
イエスキリストを信じるようになれば
比べることができない最高の結果を得た
ことになります．**

聖徒たちにはイエス様を救世主に信じるようになった事情があるものと決まっています．直接的な原因と間接的な原因があるでしょう．その原因がどんな人であることができるしどんな事件であるかも知れないです．その事件の中には経済的なことがあるでしょう．あるいは肉身に係ったのがあるでしょう．イエス様の弟子たちは大多数が “私を付いて来なさい.” イエス様の呼ぶことを受けて決断してよることで　クリスチャンの人になりました．

パウロ使徒はダメセックの路上から正午の太陽よりもっと明るい光によって地に倒られて復活したイエス様の音声を聞くようになることでクリスチャンになりました．皆さんもそれなりに　クリスチャンになった経路や事情があるでしょう．なによりも重要なことはクリスチャンになったという結果です．

ヨハネ福音書 12 章に見ればこんな記録があります．**“ユダヤ人の大きい群れがキリストがここにいらっしゃるのが分かって来たらこれはキリストだけためのないです 死者の中で生かしたラザロを見るためである大祭司長たちがラザロまで殺そうと謨議したらラザロのわけに多いユダヤ人が行ってイエスキリストを信じるである”（ヨハネ福音書 12:9～11）**．エルサレムで近い　ベーダニという同里にイエス様が愛するラザロの家庭がありました．ラザロにはマルタとマリアという妹がいました．ある日ラザロが病気になりました．

ラザロの状態は病勢が悪くなるとマルタとマリアがイエス様いらっしゃる所で人々を送りました．彼らはイエス様に “イエス様，イエス様が愛する者が病気を見てください.”と伝えました．これを伝えて聞いたイエス様がラザロの家にまっすぐ行かなくていらっしゃる所に二日をもっととどまりました．イエス様が手間を取ったことは私たち考えが及ぶことができないもっと大きい計画を持って働くからです．

イエス様がベダニに到着した時はラザロが死んでからもう四日が経ったし葬礼が皆終わった後でした．イエス様はラザロの墓で足を移しました．墓は岩を掘ってつくったのである．イエス様がマルタに墓の前に阻んでおいた石を移しておきなさいと指示しました．マルタが困難するのにもイエス様がおっしゃるのを“マルタよ，あなたが信じれば神様の光栄を見ると私が言わなかったか?”と言いました．石を移しておいたらイエス様が祈った後 “ラザロよ出ってきなさい.” そうすると死んだ　ラザロが手足を麻布で巻かれているまま出ました．イエス様が“解いておいて通うようにしなさい.”とおっしゃいました．

イエス様が死んでから四日になったラザロを生かして墓の外に出るようにした光景を見た人々から多くの種類の反応が現われました．多くの人がイエスキリストを信じるようになりました．一方にどんな人々はイエス様を敵視するバリサイ人たちに行ってこれを知らせました．ユダヤの宗教リーダーたちは緊張してサンヘドリン公議会を開いてイエスキリストだけではなくラザロも殺すことを謨議しました．イエスキリストが死んだラザロを生かした事件による反応がこのように三種類で現われました．イエス様を信じるようになった人がいます．イエス様を告発した人々がいます．イエス様とラザロを殺そうと謨議する人々がいます．人が　一生を過ごしながらどんな状況に処しても，どんな事を経験するようになろうが結局イエスキリストを信じるようになったらそれが最大のさいわいで福を受けた人です．永生を得て神様のお子さんになって天国の市民になったからこれをしのぐに値する 福はないです．

**第二番目は、何の事でもその事が信仰生
活にプラス要因になるようにすれば最善
の結果を得たことになります．**

イエス様に対するうわさは教えることと行った寄蹟によって広く拡散して行きました．イエスキリストがガボナウムの同里ある家に入ったといううわさが広がりました．すると人々が群がって来てイエス様がいらっしゃる家の庭先にも立錐の余地が　なく　いっぱいになりました．あの時担架に中風病者を載せて来る人々がいました．彼らはどうしても患者をイエス様の前に連れて行くことができなかったです．彼らは奇想天外な行動を敢行し始めました．中風病者の寝床を屋根の上に持って行きました．そしてイエス様がいらっしゃる所を見当をつけてその屋根を取り離し始めました．いくら控え目に作業をすると言っても　部屋にいる人々がどんな状況に処した　はずなのかは想像しにくくないです．奇妙なことは誰も彼らの作業を引き止めなかったしイエス様も動揺しないでそのままいらっしゃったという事実です．

その後　屋根の上の人々が抜けた所を通じて病者を寝かした寝床に下に付きました．

イエス様は寝床の上に横になった中風病者におっしゃいました．“小子よ，あなたの罪は赦しを受けたのであると.”“私があなたにいうのに起きなさい 寝床を持って家に行きなさい.”

その瞬間　中風病者が直ちに起きて今まで横になった 寝床をもって家に帰りました．その所に集まった人々皆　驚きと恐ろしさを感じて神様に光栄を捧げました．中風病者の寝床を持って来た人々はすごい模範を残しました．彼らは中風病者を イエス様の前に連れて行こうと思う仕事が難関に逢着するようになると屋根に上がって屋根を取り外して病者を寝床まだつけて下るアイディアを出して実践に移しました．

聖徒の皆さん，これらを模範として行いましょう．皆さんがイエス様を近付けようと思うことを塞ぐものなどが何でもそれによって気落ちするとか萎縮してはいけないです．試験に抜けるのではなくむしろもっと積極的に献身奉仕して礼拝ささげあげいただく方向に進んでください．

イエスキリストがおっしゃるのを **“私のためにあなたがたをののしりまた逼迫して偽ってあなたがた対しさまざまの悪口ものを言う時にはあなたがたはさいわいである　喜び　喜べ　楽しがりなさい天においてあなたがたの賞が大きくなるのだ”（マタイ 5:11,12）** しました．何の事でもその事が信仰生活にプラス要因になるようにさえすれば最善の結果を得たのです．それだけではなく皆さん自分が他の人々に有益をかける原因の提供者になるように力をつくしてください．ラザロわけに多い人がイエス様を信じるようになりました．

皆さんも多くの人がイエス様を信じるようになる原因提供者になるように努力してください．

今まで内容を整理して見ます．

1) 人が世の中に住むうちにどんな縁由でよってもイエスキリストを信じて迎接するようになれば最大の福を受けたことになります．

2) すべての事を神様にもっと身近に進んで信仰生活にプラス要因になるようにすれば最善の結果を得るようになるのです．

3) 自分の生を通じて他人がイエスキリストを迎接するようになって，信仰生活をもっと熱心にするように原因提供をしたら最上の結果を得たことになります．

聖徒の皆さん　皆このような生を生きて行くように願います．